

(社)日本原子力学会 標準委員会 原子燃料サイクル専門部会
第 47 回 LLW 処分安全評価分科会 議事録

1. 日時 2023 年 7 月 12 日(水) 13 時 30 分～15 時 10 分

2. 会議形態 Web 会議 (Webex)

3. 出席者 (順不同, 敬称略)

(出席委員) 佐々木 (主査), 山本 (副主査), 竹内 (幹事), 山岡, 石田, 村松, 大浦, 小澤, 菅谷, 杉山, 島田, 中居, 坂井, 宮本, 鈴木, 関口 (16 名)

(代理出席委員) 小足 (鈴木 (龍) 委員代理), 脇 (中瀬委員代理) (途中一時接続不良で退席)
(2 名)

(出席常時参加者) 大石, 中林, 駒月, 斉藤, 野原, 北原 (6 名, うち 2 名今回登録)

(欠席委員) (0 名)

(欠席常時参加者) (0 名)

(傍聴者) (0 名)

4. 配付資料

F16SC47-1 議事次第

F16SC47-2 第 46 回 LLW 処分安全評価分科会議事録 (案)

F16SC47-3 人事について

F16SC47-4 公衆審査結果について

F16SC47-5 L1 安全評価標準 公衆審査移行決議後の修正対応表 (転載許諾対応等)

F16SC47-6 学会事務局 (本文等への気づき事項【改訂新版】) への対応案

F16SC47-7 低レベル放射性廃棄物処分施設の安全評価の実施方法—中深度処分編—: 20XX (案)

F16SC47-8 趣意書「浅地中処分の安全評価手法: 2016 (AESJ-SC-F026:2016)」の改定について
(第 92 回標準委員会提出版)

F16SC47-9 倫理教育ご意見・質問, 感想

<参考資料>

F16SC47 参考 1 中深度処分安全評価標準に関するスケジュール

5. 議事

a) 出席者/資料確認 (F16SC47-1)

分科会事務局から, 委員総数 18 名中, 委員代理含め 18 名の出席があり, 分科会の成立要件を満たしている旨の報告があり, 引き続き配布資料の確認が行われた。F16SC47-3 は直前に誤字を修正した資料を再度送付した。

b) 前回（第 46 回）議事録確認（F16SC47-2）

分科会事務局から、前回議事録については既にメールで各委員に配布しているため、本日中にコメントがなければ学会に送付するとの説明があった。

c) 人事について（F16SC47-3）

分科会事務局から、次の 2 名の委員の交代及び 2 名の常時参加者登録についての説明があり、委員の選任においては委員推薦書を、常時参加者登録においては常時参加者登録届を確認の上、議決によって全員賛成で承認された。

- ・委員の退任
鈴木 龍二郎（日本原子力発電株式会社）
中瀬 辰男（関西電力株式会社）
- ・委員の選任
小足 隆之（日本原子力発電株式会社）
脇 寿一（関西電力株式会社）
- ・常時参加者登録
野原 壯（(国研) 日本原子力研究開発機構）
北原 恭子（日本エヌ・ユー・エス株式会社）

d) 中深度処分安全評価公衆審査結果について（F16SC47-4, 5, 6, 7）

分科会事務局から、6 月 1 日から 30 日まで実施された公衆審査の結果が報告された。結果として提出意見はなく、公衆審査によるコメントの対応と修正作業は発生しないこととなった。（F16SC47-4）。

また、中居委員から、公衆審査決議後の修正として転載許諾等の対応を実施し、公衆審査についてはこれらの修正対応を実施したものを対象に実施された旨が報告された。

さらに、学会事務局から頂いた気づき事項について対応案が説明された。今回承認が得られれば 8 月 3 日に開催される第 95 回原子燃料サイクル専門部会で報告・審議されることが事務局から説明された。関連して行われた質疑で得られたコメントに対応し必要に応じて修正を行うことを前提に、議決によって 17 名の賛成によって承認された。主な質疑は次のとおり。

- ・事務局の気づき事項の幾つかについて、事務局の解釈が間違っているように思う。例えば“他”の表記方法について、JIS は“他の”を“ほかの”と表記することを推奨しているとされているが、JIS の文章中にも“他の”は使われている。全体的に平仮名を推奨しているようには解釈できず、接続詞的に使う場合や、例示された用例の場合に限っては平仮名表記で、それ以外は漢字表記が原則と解釈するのが妥当である。No.5 の対応案に書かれている 1 番目と 3 番目は漢字のままでよいのでは。

→今回修正は、用例に沿うように修正し、そうでないものについては漢字のままとして修正した。

→平仮名の「ほか」については、冒頭の「ほかに」及び文中で「ほか、」に統一。3 番目につい

ては「したがって、一般居住者については、居住による外部及び吸入被ばくのほか、食品摂取による被ばくを考慮する。」に修正ということによいか。

→承知した。1 番目についても同様に修正する。

- ・拘るを「こだわる」と読むならば、常用漢字ではあるものの、訓読みに記載がないので平仮名が適切ではと思う。

→承知した。

→平仮名に修正する。

- ・専門部会の資料では、-5 の公衆審査決議後の修正対応も履歴がつくのか？

→公衆審査版からの変更ということを含めない予定である。

→承知した。

g) 浅地中処分安全評価標準改訂に関して (F16SC47-8)

分科会事務局から、浅地中処分の安全評価標準の改定に関する趣意書について、前回の分科会で頂いた御意見を踏まえた資料を 5 月の専門部会で説明し、さらにそこで得られた意見を踏まえて修正した資料を 6 月の標準委員会で説明した旨の経緯が説明された。駒月委員からは、前回分科会以降に実施された修正の説明があった。

主な質疑は次のとおり。

- ・指針として返答したとのことであるが、どのような意味か。趣意書は改定のスタートの段階であると思うが、この標準は指針とするといった記載を趣意書に修正した方がいいのか、あるいはその議論も今後続けるものとして、趣意書はこのままでよいのか。

→趣意書を改めて標準委員会に出す必要はないと考える。

→指針という議論は、標準の種類として Code と Guide があり、Code が規定であり、Guide は指針である。中深度標準も指針の位置付けなので、これも指針でよいと考える。

→標準の冒頭に中深度と同様に位置付けを記載し、その後、何かあれば議論するという事で承知した。また体制についても、この趣意書の段階での構成を示していると理解した。

g) 倫理教育について

分科会事務局から、メールで事前に連絡していた倫理教育について、委員については 18 名中 17 名、常時参加者については 6 名中 5 名から受講の連絡及び意見・感想を頂戴した旨の説明があり、それらの感想が共有された。

- ・多くの忌憚のない意見が寄せられたものと認識した。このコメント表と受講履歴を提出することで承認した。
- ・個人名を付した言及部分については、幹事と記載した人で記載の表現の妥当性を検討すること。

h) 今後のスケジュールについて

分科会事務局から、中深度処分安全評価標準の今後の制定までのスケジュールと、浅地中処分安全評価標準の趣意書に基づくスケジュールについて説明があった。

- ・中深度のスケジュールに記載されている講習会について、前回分科会にて3標準と合同で実施する方針であると説明を受けたが、現況はどうなっているか。
- 順調にいけば3標準いずれも10月ごろには発行されると思われるので、1月の講習会には間に合うもの考えている。原子力学会の春の年会についても検討する。
- 埋設後管理標準は既に制定決議をいただいております、安全評価標準よりも少し早く進んでいる。なお、制定と発行は同時ではなく、図書が出るタイミングが発行となる。制定と発行の間に試し刷りをするタイミングがあり、カラー/モノクロを指定するようなプロセスがある。春の年会については、企画委員会かどこかに提案し、選ばれれば企画セッションで発表ができる。その募集が始まる辺りで、3標準で調整する必要がある。
- ・これ以降次回の分科会がないが大丈夫か。
- 中深度標準に関する審議を主体とした分科会は今回が最後となるが、浅地中標準に関する分科会が今後も開催されるので、その他の議論として情報は共有する。
- ・了解した。浅地中のスケジュールについては、4回しか分科会がないタイトなスケジュールになっている。
- 3か月に1回のペースで記載したが、必要に応じて見直す必要はあるものと考えている。本資料はあくまで趣意書の内容と今までの流れを踏まえて記載した。
- 年何回実施しなければならないというような制約はないか？
- ないものと認識している。

h) 次回分科会等

次回分科会は、10月11日（水）13：30～15：30を候補とする。

以 上